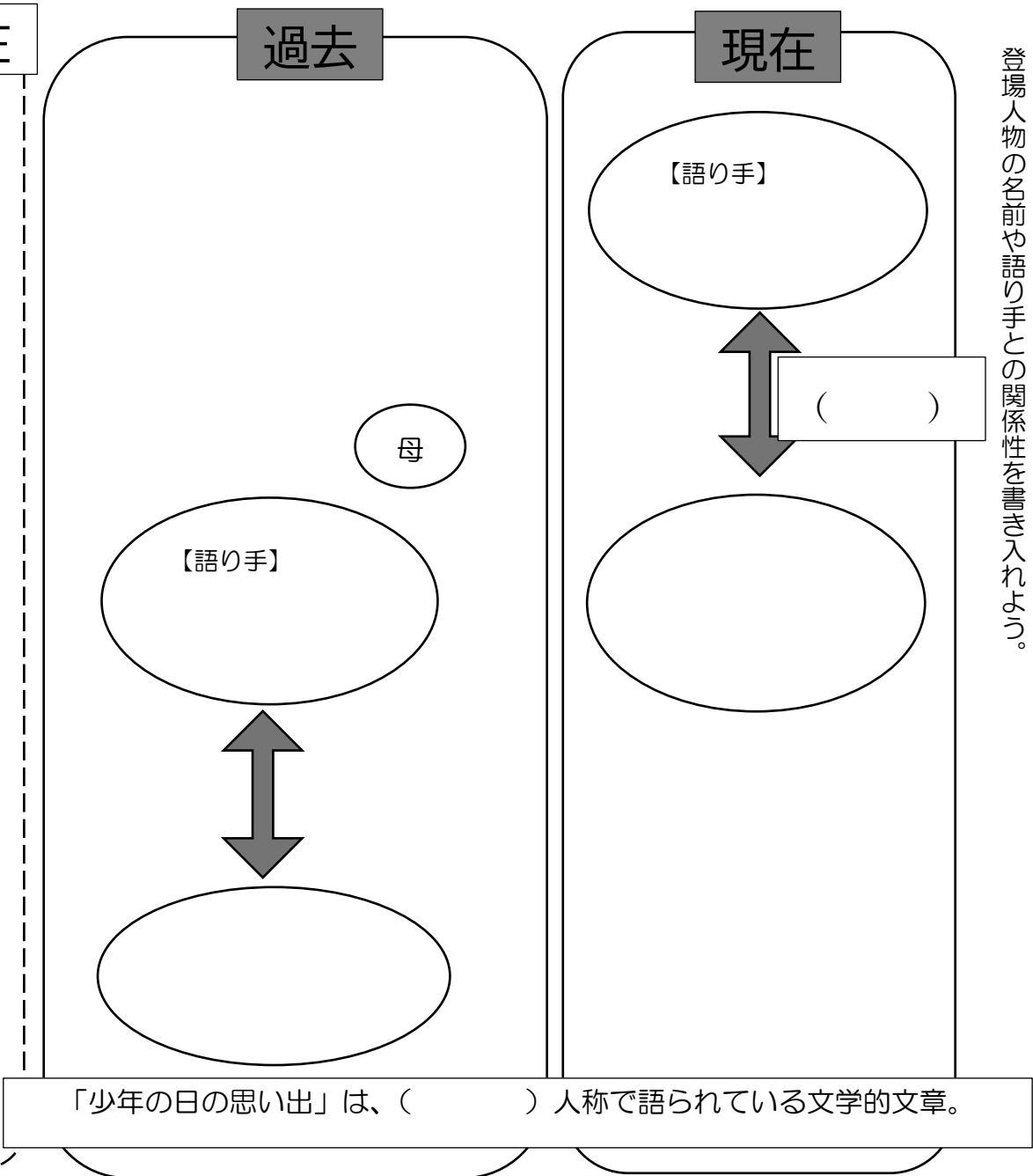


目標：物語の構造について理解する。

◎「少年の日の思い出」の文章の構造と語り手を確認しよう。

登場人物の名前や語り手との関係性を書き入れよう。



現在

※ 文章中には登場しない。(本来は、ここが入る場合が多い。)

ポイント

一人称は、登場人物の誰かの視点で語られているため、語り手以外の登場人物が何を思い、どう感じているかはわからない。

目標：物語全体の流れを把握しよう。

◎本文中の言葉を（ ）（ ）に書き入れ、①～⑧にあてはまる心情をあとから選んで記号を書こう。

	あらすじ 客が（ ）（ ）にまじわる 思い出を語り始める。	描写・言葉 「闇」 『さう、けっし う。』	描写に表された心情 客（＝僕）の心の傷
現在 「僕」はチョウチョ集めの （ ）（ ）だったが、（ ） のような自分の獲物は、妹たちだけに 見せる習慣だった。 珍しい（ ）（ ）を捕らえ て（ ）（ ）に見せたとい ろ、こっぴどく（ ）（ ）され た。	「強くにおう乾いた 荒野の焼きつくろう な昼下がりに」 「非のうちどころが ないという悪徳」 「模範少年」 「こっぴどい批評 家」	少年の①（ ） ア 輝かしい時間 イ 物寂しい時間 エーミールに対する少年の ②（ ）（ ）と③（ ）（ ） ア 親しみ イ うらやみ ウ 関心 エ 軽蔑	
過去（十歳ごろ） エーミールが捕らえた、 （ ）（ ）を見たくて部屋に 入る。斑点に魅せられ、手に入れた とい（ ）（ ）が生まれ、持ち 出してしま（＝盗み）。 （ ）（ ）が目覚めて返しに行 くが、チョウは潰れてしまった。	「斑点が…僕を見つ めた」 「下劣なやつ」 「自分自身におびえ ながら」	少年の④（ ）（ ）の強（ ） ア あこがれ イ おそれ 少年の⑤（ ）（ ）と ⑥（ ）（ ） ア 不快感 イ 罪悪感 ウ 立腹 エ 苦惱	
過去（十二歳ごろ） （ ）（ ）に打ち明けた後、エー ミールのところに告白しに行くが、エ ーミールは「僕」をただ（ ）（ ） 的にみつめるだけだった。 「僕」は、一度起きたことはもう （ ）（ ）のできないものだと思 り、自分のチョウチョを一つ一つ、こ なこなに押し潰した。	「君はそんなやつな んだな。』 「僕は悪漢だ」 「こなこなに押し潰 してしまった」	エーミールの少年に対する ⑦（ ）（ ） ア さげすみ イ うらやみ 自分自身に対する（ ）（ ） ア 情け イ 処罰	

目標：「僕」の心情の変化を元に、ラストシーンの意味を考えよう。

1、「僕」の心情の変化を元に、ラストシーンの意味を考えよう。

教科書	「僕」の行動や起こった出来事	「僕」の心情の描写 (教科書の言葉で書へ。)	喜 ↑ ↓ 悲
P 254 L 2	エーミールがヤマムユガを持っているということを知った。	すっかり興奮してしまった 待ちきれなくなった	・
P 255 L 12	エーミールの部屋でヤマムユガを留めていた針を抜いた。		
P 256 L 1	エーミールの部屋からヤマムユガを持ち出した。		
P 256 L 3	下の方から誰かが上がってくるのが聞こえた。		
P 256 L 8	家の入り口に着く前に、お手伝いさんとすれ違った。		
P 256 L 14	階段を駆け上がり、エーミールの部屋の中に入った。	元に戻さなければならぬという冷静な気持ち、見つかりはしないかという恐怖。	
P 257 L 1	ヤマムユガが潰れてしまっていたことに気づいた。		
P 257 L 12	家に帰り、母に一切を打ち明けた。		

2、ラストシーンの「僕」の行動の理由を考えよう。

★「…闇の中で聞いた。そしてチョウウチョを一つ一つ取り出して指でこなごなを押し潰していった。」「なぜ?」 ※「僕」の行動の理由やその意味があったか考えよう。

目標：「僕」とエミールはお互いのことをよく知っているのだろうか。

【僕】



性格・能力

家庭の経済状況

「僕」がエミールのことをよく知っているか。

【エミール】



性格・能力

家庭の経済状況

エミールが「僕」のことをよく知っているか。